

図書館員のための読み聞かせ講座報告

(岐阜会場)

日 時：平成15年6月18日(水) 10:30～16:00

会 場：岐阜県図書館研修室

参加者：42名

(飛騨会場)

日 時：平成15年6月27日(金) 12:30～15:30

会 場：高山市図書館会議室

参加者：22名



子どもの読書活動の推進に関する法律が施行された後、子どもの読書への関心が一段と高まり、絵本の読み聞かせ活動などが地域や学校で広まりつつあります。こうした中、おはなし会を計画・実践し、各図書館及び公民館図書室等においてボランティアの皆さんの支援・指導が行うことができるように、読み聞かせ及びおはなし会の運営に関する基本事項についての講座を開催しました。昨年度は岐阜県図書館1ヶ所で3回連続講座でしたが、今年度は岐阜会場、飛騨会場の2ヶ所で開催しました。

いずれの会場でも当館職員(児童図書館員養成講座修了者)が読み聞かせや絵本についての講習を行いました。岐阜会場では、読み聞かせや絵本についての基本事項を確認した後、午後からは岐阜県図書館児童図書研究室資料を利用して、読み聞かせのために実際に絵本を選ぶ実習も行いました。グループに分かれて対象年齢や時間などを決めるところから始め、絵本や紙芝居を選びました。作成したプログラムやそれぞれの絵本への思い等を発表していただきました。飛騨会場では、実習に代えて事前に各館・室でのおはなし会プログラムを1つずつ提出していただき、それにそって発表をしていただきました。

飛騨会場参加者からは「飛騨で開催だから参加できた」「今後もこうした研修を飛騨でおこなってほしい」との要望もあり、来年度以降も飛騨、東濃等、当館から遠く離れた地域での開催を検討する必要を感じました。

岐阜新聞で紹介した子どもの本

岐阜新聞朝刊「NIE（教育に新聞を）」の中で、毎月第2水曜日に「おすすめBOOK」として当館資料を2点ずつ紹介しています。すでに掲載された1～9月分をここにまとめて掲載します。

1月

「精霊の守り人」上橋菜穂子／著、二木真希子／絵

今、日本では「ハリー・ポッター」など海外のファンタジーが大人気です。でも、日本生まれのファンタジーにもおもしろいものがあります。この本は、人気の「守り人」シリーズ第一作目。女用心棒バルサが、精霊の卵を宿した「新ヨゴ皇国」の皇子チャグムを守ります。このシリーズはほかに『闇の守り人』『夢の守り人』『虚空の旅人』があります。もうすぐ新作も出る予定です。（偕成社、1500円）

「じっぼ まいごのかっぱはくいしんぼう」たつみや章／著、広瀬弦／画

しぜんのふしぎを感じたことがありますか？ カッパを見たことがありますか？ この本の主人公・太郎は、大洪水のあった次の日、カッパに会いました。電柱にひっかかっていた生き物を、家にひろって帰ったら、それがカッパだったのです。そして太郎は、カッパに「じっぼ」と名前をつけて、ちょっとの間いっしょにくらしました。もしかしたらみなさんのおうちの近くにもいるかもしれませんよ。（あかね書房、951円）

2月

「のりもの運転席ずかん」松本典久／ぶん、井上広和／しゃしん

新幹線、ジェット機、船、バス……みんなは、いろいろなのりものによって、いろいろなところへ出かけますね。でも、のりものの運転席にのったことがある人は、あまりいないと思います。運転席はどうなっているのでしょうか？ それを知りたい人は、ぜひこの本を読んでみてください。いろいろなのりものの運転席の写真がのっています。「マスコンハンドル」「そうじゅうかん操縦桿」「そうだりん操舵輪」「ステアリング」など、写真にうつっている機器の名前も分かります。（小峰書店、952円）

「機関車・電車の歴史」山本忠敬／著

この本は、機関車・電車が発達していく歴史をたどった図鑑です。19世紀初頭に発明された蒸気機関車から20世紀の最後をかざる高速鉄道網まで、世界のいろいろな国の機関車・電車を、約250種類紹介しています。正確であたたかみのある図版には、それぞれの機関車・電車のデータがそえられています。

『飛行機の歴史』に続く、乗り物の歴史図鑑の第2弾です。著者は、先月中旬に亡くなってしまいましたが、『しょうぼうじどうしゃじぶた』などで知られる、乗り物絵本の第一人者です。（福音館書店、3800円）

3月

「バッテリー」1～ あさのあつこ / 著、佐藤真紀子 / 絵

この物語は、日本で最もなじみのあるスポーツの一つ、野球に情熱をかける少年たちの物語です。

中学入学直前の春休み、原田巧は父の転勤で新田市へやって来ました。巧は地元の少年野球チームの捕手・永倉豪と出会い、最高のバッテリーになることを確信します。豪たちとともに中学校の野球部に入部しますが、自分の直球に自信をもつ巧は、先輩たちや顧問の反発をかいます。そして最高のバッテリーになるはずだった豪とも……。現在五巻まで刊行されています。(教育画劇 1, 3～5巻は1500円、2巻は1600円)

「DIVE!」全4巻 森絵都 / 著

飛び込み台から十メートル下のプールへ急降下。その間、わずか一・四秒。水泳の飛び込み競技は、その一・四秒に自分の全てをかける競技です。この飛び込み競技に打ち込む少年たちの物語が『DIVE!』です。

ただただ飛び込みが好きで、天性の才能をもつ坂井知季(ともき)。伝説の天才ダイバーであった祖父のために飛び込む沖津飛沫(しぶき)。元オリンピック選手である父を越えたい富士谷要一。全く違うタイプの三人が、時には孤独に戦い、時には刺激しあいながら、オリンピックを目指します。

あまりなじみのない飛び込み競技をわかりやすく描いています。(講談社 各950円)

4月

「花と実の図鑑」1～ 三原道弘 / 文、斎藤謙綱 / 絵

この本は、学校や公園、街路樹でよく見かける木の図鑑です。花の芽ができて花が咲き、実が育って種ができるまでを、細密な水彩画で紹介しています。

それぞれの木の芽や花の特徴だけでなく、四季の移り変わりとともに木の様子がどんなふうになっていくのかが手に取るように分かるので、四季を通じて樹木の観察に役立ちます。巻末にはそれぞれの樹木についての解説もあります。現在、第七巻まで発行されています。(偕成社、各2200円)

「お花がさいた やさいができた」全10巻 おかだひろみ / 文、江口あけみ / 絵

草花を観察するだけではなく、自分で育ててみませんか？ そのときにはぜひ、このシリーズを参考にしてください。育てるときに注意することや、来年もまた育てるための種のとりの方や球根の保存方法、料理や手芸での使用方法まで、写真やイラストを使って、小さな子にも分かりやすく説明しています。花や野菜をたっぷり楽しむことができます。全十巻の内容は『チューリップ』『ユリ』『ワスレナグサ』『エンドウ』『ハツカダイコン』『コマツナ』『マリゴールド』『コスモス』『アサガオ』『ヒマワリ』です。

(偕成社、各1400円)

5月

「ただいまお仕事中」おちとよこ / 文、秋山とも子 / 絵

みなさんは、大人になったらどんな仕事をやってみたいですか？ この本は小学生が「なりたい！」とこたえた、あこがれの仕事三十種類を、イラストで楽しく紹介しています。やってみたい仕事が見つかるかもしれませんよ。

「たくさんのふしぎ」(月刊誌・福音館書店発行)の一九九四年四月号から一年にわたって連載されていたものを手直しし、新たに大幅にページを増やしてまとめた本です。「おまけのページ」には、今はなくなってしまった昔の仕事や最近新しく登場した仕事のリストなどがあります。(福音館書店、1500円)

「こんな生き方がしたい」1～

このシリーズは、その人の成し遂げた業績だけでなく、その職業についても知ることができる伝記シリーズです。各巻では、主に現在も活躍している女性を、職業が重ならないように取り上げています。その人の活躍分野に詳しい人が、直接インタビューしたり、著書や文献を参考にしながらまとめています。巻末には、取り上げた人の作品や著作のリスト、年譜はもちろん、その職業に関心のある人へのアドバイスや参考文献の紹介まであります。『今井通子』『渥美雅子』『ココ・シャネル』『田丸美寿々』『長谷川逸子』など、現在15巻刊行されています。(理論社、各1500円)

6月

「独楽(こま)」全日本独楽回しの会 / 監修、安藤正樹 / 文

曲ごまを日本刀の刃先で回したり、空高く投げ上げたディアボロを見事にキャッチしたり、大道芸でもおなじみのこま。江戸時代に大流行してから最近のベイベレードまで、いろいろな種類のこまが生まれました。この本には、日本のこまを中心に世界のこま約五十種類のこまが紹介されています。また、こまの歴史や、身近な材料を使ったこまの作り方、こまを回す技も写真などで分かりやすく説明されています。この本を参考にして世界でたった一つのオリジナルごまを作ってみてはいかがでしょうか？(文溪堂、1500円)

「音のふしぎ百科」1, 2 繁下和雄、日本音響学会 / 編著

私たちのまわりには、実にさまざまな音があふれています。この本は、Q & A形式で音の性質や楽器や音楽の不思議について解説しています。また、一巻には「音に触ろう」「音を見よう」など、いろいろな実験をとおして音を楽しむ方法が紹介されています。みなさんの身近にある音を調べたり、いろいろな楽器を使って実験してみてはいかがでしょうか？

巻末には音にかかわる仕事の紹介(1巻)、音を楽しむ博物館の紹介、音に関する参考図書の紹介(2巻)等が掲載されています。(樹立社、各3000円)

7月

「ネコのタクシー」南部和也 / さく、さとうあや / え

ネコのトムは足がはやいのがじまんです。最初はだれの飼いネコでもありませんでしたが、タクシー運転手のランスさんの飼いネコになりました。ところがある日、ランスさんがけがをしてしまいました。仕事ができなくなって困っているランスさんををたすけようと、トムはネコのタクシーを始めました。そして町じゅうを走り回って大かつやく！

この本の作者は、ネコせんもんのお医者さんで、ネコのことがだいすきです。このお話を読むと、みなさんもきっとネコのことがだいすきになりますよ。(福音館書店、1200円)

「バーンスタイン」ひのまどか / 著

ユダヤ系アメリカ人として生まれたバーンスタイン(1918~1990)は、「ウエストサイド物語」等の作曲者として、また現代を代表する指揮者として知られています。この本を読むと、音楽だけでなく、教育や政治にもあまりある才能と情熱を注いだことが分かります。著者はこの本を書くにあたり現地を取材し、親しかった人へのインタビューも行っています。小学校高学年の皆さんや中学生の皆さんには、物語だけでなくこうした伝記もおすすめです。(リブリオ出版、2000円)

8月

「オバケちゃん」松谷みよ子 / 作、いとうひろし / 絵

オバケちゃんは、パパおばけとママおばけと三人で、ある森の中でくらしていました。おばけといふとこわいかもしれませんが、オバケちゃんは「こんにちは、かいじゅうじゃありません。ぼく、オバケちゃんです。ねこによろしく。」とあいさつする、れいぎ正しいおばけです。ある日、森のもちぬしが、森の木を切ってお金もうけしよう、とたくらんでいることが分かりました。オバケちゃんは、パパやママ、お友だちのこうもりのチータや絵かきのノンちゃんと力を合わせて自分たちの森を守ろうとしますが...(講談社、1200円)

「幽霊を見た10の話」フィリパ・ピアス / 作、高杉一郎 / 訳

この本は、不思議な力にまつわる、10の話が収められています。

「口笛を吹く者たち」がケヴィンに迫りくる『影の檻』は、先に読み進むのも途中で読むのをやめるのも恐ろしくります。また、子どもの頃嵐の夜に起こったできごとを老人が語る『水門で』は、怖いというより、涙がとまりません。どの話でも、過去と現在が交錯し、自然を超えた不思議な力が、ある人の人生に働きかけます。小学校高学年や中学生の皆さんはもちろん、大人にも読みごたえのある作品です。(岩波書店、1845円)

9月

「発見！体験！日本の食事」全7巻 次山信男／監修

日本のいろいろな時代の食べ物や日本独特の食事など、食べ物をとおして日本文化を考えるシリーズです。第1巻では縄文時代の人たちが作っていたドングリクッキーを取り上げています。縄文時代の生活や、ドングリの種類、ドングリクッキーの作り方などをわかりやすく図解しています。第2巻ではすいとんを取り上げ、戦時中の食生活を紹介しています。この他に「そば・うどん」「すし」「おにぎり」「もち」「豆腐・みそ・しょうゆ」があります。(ポプラ社、各2800円)

「忍者図鑑」黒井宏光／著、長谷川義史／絵

忍者の「忍び装束」の色は黒ではなかった！人間離れした忍術を使うけど筋肉隆々ではなかった！この本を読むと、忍者について大発見がいっぱいで、ますます忍者にあこがれてしまいます。健康法やサバイバルの知恵などは、忍者でなくても役に立ちますよ。

「最後の忍者」と言われる甲賀流忍者に弟子入りし、本当の忍術とは、忍者とは何かについて学んだ著者の、熱い思いがあふれる一冊です。(ブロンズ新社、1500円)